

# カワラスズ

*Dianemobius furumagiensis* (Ohmachi & Furukawa)  
バッタ目・ヒバリモドキ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

小浜市遠敷川での記録以降 30 年以上確認されていなかったが、2015 年に大野市の打波川河川敷で確認された。採集しづらい種であるが、灯火にも集まり、さらに生息地が見つかる可能性がある。河川敷という人為的改変を受けやすい場所に生息しており、注視の継続が必要である。

## 種の特徴

体長オス 8.4 mm、メス 7.5 mm ほどの小形のコオロギ。マダラスズに似るが、本種では翅の基部が白く、小顎髭の先端が白いことで区別できる。河川中流の河原や鉄道の線路敷石の間にいる。秋に成虫が出現する。

## 分 布

本州～九州に分布。県内では小浜市遠敷川（高野）に記録があった。2015 年、大野市上打波、嵐口の打波川河川敷で確認された。

## 生息を脅かす要因

河川中流域の河原における開発行為により、生息地が減少するおそれがある。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、村井・伊藤（2011）、日本直翅類学会（2006）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○											○	

# アカエゾゼミ

*Lyristes flammatus* (Distant)  
カメムシ目・セミ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

全国的に産地が局所的であり、約 20 の都府県で絶滅危惧種としてレッドリストに記載される。採集しづらい種であることから、県内でも 1979 年以降記録がない。県内の生息状況を把握すべく、調査の継続が必要である。

## 種の特徴

体長 60 ～ 68 mm。エゾゼミに似るが、全体的に赤褐色を帯び、オスの腹弁は末端が腹部の第 3 腹板に達しないことで区別される。北海道や東北地方では平地にみられるが、本州中部以西では標高 600 ～ 1,200m の山地に生息し、本州以西ではブナ林に多い。

## 分 布

北海道～九州に分布し、佐渡島にも記録がある。県内では 1970 年代に大野市角野前坂、朝日前坂での採集記録があり、保月山での鳴き声による確認情報もある。

## 生息を脅かす要因

県内に生息している他のセミに比べると個体数が少なく、分布域が狭いため、ブナ林等の伐採が脅威となる。頭巾山の京都側では本種の生息が確認されており、本県側でも生息が確認できる可能性がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然保護課（2002）、林・税所（2011）、平嶋・森本（2008）、今井・大谷（2011）、宮武（編）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

# ハウチワウンカ

*Trypetimorpha japonica* Ishihara  
カメムシ目・ゲンバイウンカ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

## 選定理由

2004 年にあわら市内で見つかった。湿地に生息し、全国的に生息地が少なくかつ局限される種である。県内での生息情報は不足しているが、湿地環境の消失・変化に伴い今後の衰亡が懸念されるため、生息状況の把握を含め、今後注視が必要である。

## 種の特徴

体長 2.7 ～ 3.5 mm。成虫は 8 ～ 10 月に出現し、湿性環境に生育するチガヤ等の根際付近にみられる。

## 分 布

本州、九州に分布。県内ではあわら市内でのみ生息が確認されている。

## 生息を脅かす要因

湿地に生息することから、湿地の開発や管理放棄、自然遷移に伴う湿地環境の変化が脅威となる。

参考文献 平嶋・森本（2008）、環境省（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													○				